



# 興 照 寺 報

平成28年7月

60号

発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303



大分県白杵の石仏（熊本地震の被害を免れました）

- 一面 人生に対する感動
- 二面 がんばれ熊本
- 三面 春季彼岸法要、春季永代経法要のお話
- 四面 秋季彼岸、永代経、報恩講のご案内

納骨堂・お盆についてのお知らせ

## 人生に対する感動

大きな地震が起きるたびに思い出すことがあります。

中越地震の時のこと、親子が乗った車が崖崩れに巻き込まれ、幼子だけが救出されるという出来事がありました。テレビで中継されていきましたので覚えておられる方が多いと思います。

幼子が救出された時、  
「良かった！生きてた！」  
と感動がありました。拍手したくなるような感動がありました。

『今、私たちは生きています。』  
自分が生きていることに感動を持っておられますか？

「幼子が助かった！良かった！」  
と感動があったのに、自分が生きていることにはさほどの感動も無く、

「あたりまえ」  
という思いで人生を送っておられませんか？

私たちは今、たった一度しかない、かけがえのない大切な人生を生きています。

もっと感動を持って、いのちを輝かせて生きていきたいものです。

# がんばれ熊本

熊本地震で被災された多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

4月14日21時26分熊本県で一度目の震度7の地震があり、そして余震の続く中16日1時25分に本震とされる二回目の地震がありました。いずれの時も鹿児島でも大きな揺れを感じました。携帯電話等をお持ちの方は緊急地震速報のけたたましい音に驚かれ眠りを覚まされたのではないのでしょうか。死者49名、行方不明1名、負傷者多数と言う「平成28年熊本地震」の発生です。一夜明けた熊本の惨状は皆さんもお判りの通りです。何度か見た事のある熊本城の石垣が崩れ、阿蘇神社の楼門も倒壊し、あちこちで土砂災害がおきていま



した。また、震源に近く活断層の上にあった益城町周辺では多くの家屋が全壊の様子でした。

当寺に関係のある方も熊本におられます。地震の後暫くしてからお見舞いの連絡をしたのですが、皆さんご苦労されたようです。地震から半月ぐらいして来寺された熊本市内にお住まいの方は多くの物が壊れ、一回目の地震の後しっかりと固定した大きな仏壇が二回目でもまたずれていたそうです。そして自宅マンションと道との間に段差もできていたそうです。数日避難所で生活された方もおられたようです。



今回の地震では寺院にも大きな被害がありました。西本願寺の本願寺新報では5月12日現在で被災寺院は446カ寺とあります。倒壊した寺院、解体しなければならぬ寺院も数多くあるようです。また、地震後施設を開放し避難所にしたり、炊き出しなどの奉仕も行われました。東北の震災の際に宗教学者の山折哲雄さんが「宗教はこうした大規



模災害を前にして無力のようにも思えるかもしれない。しかしこんな状況だからこそ、宗教に改めて目が向けられるだろう。」そしてそれは世の中が「偶然性」に満ちているからだとし、「震災で生死を分けた偶然性、科学的にも理論的にも、どんな因果関係でも説明できるものではない。納得のいかない割り切れなさ、受け入れがたい事実を抱えると、人は立ちすくんでしまい、耐えるのもつらくなる。宗教はこれに対処する糸口を持ちうる。」と言っておられます。また、「戦後日本は無常という概念にふたをするように、死と正面から向き合うことを避けてきた」とし、現代文明の中に生きる我々へ災害を通しての問いかけとされています。

また、氏は6月20日南日本新聞の「持論」に物理学者の寺田寅彦、倫理学の和辻哲郎、文学の谷崎潤一郎の考え方をあげ「日本列島の復興構想」という事を取り上げておられました。



今後復興には長い時間とご苦労が伴うと思います。東北の震災の後、ボランティアを続けておられる方が

「よりそう」という言葉を使っておられました。改めて寄り添い支えあう気持ちを持ちたいと思います。当寺では毎年7月末から8月末までの賽銭を日赤に寄付してきましたが、今回地震の発生をうけ、4月からの賽銭を被災された方々への義援金とするという事になっています。皆さんのご協力をお願いいたします。

このページの写真は本願寺新報ホームページより転載いたしました。



春季彼岸法要

講師 丸山 英人 先生

お彼岸というのは彼の岸と書き  
ますね。彼の岸があればこちらの  
岸もあるわけです。では、彼の岸  
とこちらの岸とどのように違うか  
というと、まず、お彼岸というの  
はお浄土のことです。お浄土とは  
清浄な国。争いごとのない、美し  
い光に満ち溢れた世界です。それ  
に対して、こちらの岸である此岸  
はわたしたちの住んでいる世界で  
す。愛憎葛藤し、人さまと諍いを  
起こしながら決めごとの中に縛ら  
れ、そうして罪をこしらえて、最  
後には限りのある世界でさみしく  
分かれていかなければならないの  
が、この此岸であり、穢土ともい  
います。

このように尋ねられる方があり  
ます。

「私たちの住んでいる娑婆世界は  
本当に住みにくいところだから、  
ひとときも早くお浄土に参らせて  
もらいましょう。というのが浄土  
真宗の教えではないんですか？」  
と。

しかし、この世界が嫌だから早く  
美しい世界に行こう、というよう  
な単純な教えでもないのです。こ  
の娑婆世界がどうにもこうにもな  
らない世界なら、もう穢土の世界  
と見定めて、そして背負わなけれ  
ばならない苦勞ならばしっかりと

背負って、生死を超えて光に向か  
って一歩ずつお浄土への旅路をさ  
せていただきますよう、というの  
が浄土真宗のお彼岸の受け取り方  
なのです。



念仏ではな  
いでしょう  
か。  
(要旨)

五木寛之さんの本の中に親鸞聖  
人がこのような事をおっしゃる場  
面がありました。まだ子供の頃青  
蓮院から比叡山まで使いを頼まれ  
たが、途中で夜になり厚い雲で月  
明かりもない、何も見えない山道  
で獣の音が聞こえ近くでは轟々と  
水の流れる音もする。むやみに歩  
けず方角も分からない。くじけそ  
うになっていた時、雲間に月明か  
りがさして比叡山の建物の一角が  
かすかに見えた。その途端、あま  
りの重さに投げ投げようかとささ  
思えた荷物が急に軽くなったと。  
もちろん荷物が軽くなったわけ  
はありません。たどり着くべき場  
所が見えたからでしょう。お念仏  
を称えても称えなくとも人生で背  
負う苦勞はおんなじです。しか  
し、いつか必ずたどり着くお浄土  
からの光を仰ぎながら此岸に生き  
る。その拠  
り所とな  
り、力を与  
えてくれる  
のが南無阿  
弥陀仏のお  
念仏ではな  
いでしょう  
か。

春季永代経法要

講師 原田 英道 先生

(この度、先生は新幹線で来られ  
る予定でしたが、熊本地震のため  
急遽臨時の飛行機で無理をして来  
ていただきました。またご息子が  
熊本に居られ被災され、避難生活  
を送られているとのこと。その中  
で大切なお取り次ぎをいただきました  
した)

宗教学者のひろさちや氏は、今  
の多くの宗教は自分の願いを叶え  
させればという自動販売機的宗教  
であり、それでは本物の幸せは得  
られないと言われました。また先  
日来日された世界一貧しい大統領  
ウルグアイのホセムヒカ氏はある  
対談で「自分の家族が幸せならそ  
れで良いのでは」と問われ「自分  
の家族の幸せを願うのはあたりま  
え。でもね、何か他人のために出  
来たら幸せではないですか」と答  
えています。宗教とは生活の手段  
ではありません。方向性、道しる  
べとなるべきものであります。ア  
ンパンマンの歌に、「何のために生  
まれて 何をして生きるのか 答  
えられないなんて そんなのいや  
だ」とあります。自分だけ良けれ  
ばそれでいいのでしょうか。

浄土真宗は「往生」を説く教え  
であります。往生とは死んでゆく  
ことではありません。生きてゆく  
く、生まれてゆく方向を示す言葉

であります。どこにゆくのか、一  
つには浄土に往って仏に成る、往  
生は死んでからではないのです。  
私たちはもうすでに極楽往生の合  
格通知を受け取っているのです、  
それが「南無阿弥陀仏」のお念仏  
と出遭って入ると言う事、今現在  
浄土に向かつて生きていますので  
す。二つには、仏として還ってく  
るということ。何のために還  
ってくるのか、それが本日の永代  
経。亡くなったみなさんの先祖の  
方がどうかお寺に行つて仏縁を持  
つてくれよとの、はたらきになつ  
て今のご縁がある。亡くなった  
方々が仏となつてご縁を結んであ  
る。



と感謝したいものです。

秋季彼岸法要のご案内

・期日	○のある日時にあります		
九月	午前	午後	
十九日(月)	○	○	
二十日(火)	○	○	
二十一日(水)	吹上	吹上	
二十二日(木)	○	○	
お中日	○	○	

秋季永代経法要のご案内

・時間 午前十時より  
午後二時より

・講師 葦原 江水先生 (熊本県)  
女性講師

・期日 十月 二十二日(土)  
二十三日(日)

・時間 朝席 十時より  
昼席 二時より

・講師 中山 和正先生 (山口県)

※永代経志納のお勤めは、二十三日昼席に行います。まだ永代経をあげておられない方は、寺へお問い合わせください。

永代経について

浄土真宗のみ教えが「子々孫々永代にわたって伝えられてゆくように」という願いを込めて営まれるのが永代経法要です。み教えを伝えて下さったご先祖の遺徳を偲び、何より私自身が開法に励んで、慶びを子孫に伝えていく。これこそが永代経法要の大きな意義です。

報恩講のご案内

・日 十一月二十日(日)

・時間 朝九時半より  
昼席二時より

・講師 木村 幸道先生 (福岡県)

花まつり・和順会総会

四月三日に本堂で催されました。帰敬式を行い、その後踊りなどが披露されました。



「和順会」払戻しのご案内

満会となります和順会の払戻しを八月四日(木)に行います。会員の皆様には改めてご通知いたします。

「和順会」会員募集のお願い

当寺には「和順会」という五十年を超える長い歴史をもつご門徒の方々の会があり、八月より新年度が始まります。できる限り多くの方に入会していただき寺に親しめます。詳しくは寺へお問い合わせください。

納骨堂募集



古い納骨壇にも空きが  
出ました。  
ご希望の方が居られま  
したらご連絡ください。

お盆参りについてお願い

本年も門徒会費納入時にお聞きしましたご希望をもとに盆参りをいたします。

初盆や寺での読経を希望された方にはその日時などを書いたものを同封してありますのでお読みください。

また、ご自宅への盆参りを希望された方は、ほぼ例年と同じ日にお参りする予定ですが時間はお約束できませんのでご了承ください。

お盆中の納骨堂の

お参りについて

八月の十三日より十五日までは閉館時間を午後九時にいたします。午前九時半頃より午後三時頃までは、寺での法要と重なり駐車場が混雑します。車での参りは避けられた方がよいかと思えます。また、長時間の駐車もご遠慮ください。

門徒会費・納骨堂管理費  
納入のお願い

今年度門徒会費等が未納の方がおられます。ご確認のうえ、納入をお願いいたします。

寺役員紹介(順不同・敬称略)

- 代表役員 瀬川英孝
- 責任役員 鳥丸政亮、馬場節也、田原秀子、瀬川英憲、久永修平、永田静一郎(新任・総代より)
- 総代 井ノ上英記、永家俊三、村田 隆、福留積治、馬場正蔵、瀬川英清、川井田學、有村 忠、有馬純博、竹井勝志、御領勝芳、田中藤雄、大山康成(新任)、瀬川英之(新任)
- 監事 高山銀次郎、丸山賢治

あ)と)が)き)

「梅雨は鬱陶しくアイヤだなあ。」  
梅雨の真っ只中、ムシムシする暑さについて愚痴がでます。自然の普段の営みの中で都合の良いことは甘受し、都合の悪いことには文句が出る。私はやっぱり凡夫です。